

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 1)

公の施設の名称	市営駐車場(新尾道駅南、新尾道駅北、新尾道駅北第二、東尾道駅前)		
所在地	尾道市栗原町9350番地10、尾道市栗原町9429番地1、尾道市栗原町9429番地4、尾道市高須町4748番地8		
指定管理者	団体名	おのみちバス株式会社	
	所在地	尾道市東尾道18番地1	
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日		
選定方法	<input type="radio"/> 公募	<input type="radio"/> 非公募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="radio"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間5年のうち4年目		
施設設置目的	駐車料金を徴収する自動車駐車場。		
主な実施事業	利用料金の徴収、施設の管理及び運営、施設及び設備の維持管理		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 利用料金	千円			58,900	58,329	59,445	62,206	64,072	68,181	66,754	60,238	66,204	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A		0	0	0	0	0
	利用料金収入 B		58,329	62,206	68,181	60,238	66,204
	自主事業収入 C		0	0	0	0	0
	その他 D		0	47	52	35	0
	収入計(A~Dの計) E			58,329	62,253	68,233	60,273
支出	指定事業費 F		58,665	62,236	67,173	60,379	61,620
	内、人件費 G		3,285	3,597	3,619	3,375	3,400
	内、修繕費 H		265	1,096	492	458	648
	内、再委託料 I		4,074	4,397	4,200	4,195	4,181
	内、施設使用料 J		47,990	50,286	56,131	49,354	54,302
	自主事業費 K			0	0	0	0
支出計(F+K) L			58,665	62,236	67,173	60,379	61,620
使用料収入(市へ直接収納) M			0	0	0	0	0
減免金額 N			0	0	0	0	0
事業収支 E-L			-336	17	1,060	-106	4,584
利用料金収入比率 B/E			100.0%	99.9%	99.9%	99.9%	100.0%
人件費比率 G/L			5.6%	5.8%	5.4%	5.6%	5.5%
使用料収入比率 M/*1			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
	緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A
		緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A
		緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
	《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	3	回
		管理運営協議回数	12	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>利用台数・利用料金ともに減少となりました。これは定期利用者数の維持に努めたが、定期利用以外の利用が少なかった為と、令和2年1月から3月にかけて新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の影響により、JRの利用が低迷し、そのことに伴う駐車場の利用自体も減った為と思われます。加えて、前年に引き続き、カーブの人气が高く、マツダスタジアムでの試合開催時に利用が多かったが、公式戦終盤にはクライマックスシリーズを逃し、前年並みの利用者数は得られなかった為と思われます。</p> <p>新尾道駅南駐車場の区画線補修工事を実施したことや、その他修繕作業、清掃作業、剪定作業を定期的実施することにより、駐車場利用者にとって、きれいで使いやすい駐車場づくりに努めました。</p> <p>(所管評価)</p> <p>毎月の報告や、市への連絡体制や報告事項も的確なことから、駐車場管理者としての意識のたかさがうかがえる。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 2)

公の施設の名称	尾道市営駐車場(ベルポール、尾道駅前)		
所在地	尾道市東御所町1番19号、尾道市東御所町879番地		
指定管理者	団体名	尾道駅前都市開発株式会社	
	所在地	尾道市東御所町1-18	
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日		
選定方法	公募	○	非公募
料金制導入区分	○	利用料金	使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間5年のうち4年目		
施設設置目的	尾道駅及びしまなみ交流館周辺の駐車場整備		
主な実施事業	駐車場の管理運営		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 駐車場利用料	千円	65,100	60,353	60,000	61,313	61,300	60,846	60,500	59,851	60,495	63,602	36,300	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	0	0	0	0	0	0
	利用料金収入 B	60,353	61,313	60,846	59,851	63,602	36,300
	自主事業収入 C	0	0	0	0	0	0
	その他 D	0	0	0	0	0	0
	収入計(A~Dの計) E	60,353	61,313	60,846	59,851	63,602	36,300
支出	指定事業費 F	58,764	58,917	59,208	58,484	60,043	39,494
	内、人件費 G	3,896	3,865	3,897	4,056	2,529	2,600
	内、修繕費 H	224	82	379	349	332	350
	内、再委託料 I	6,343	6,109	6,264	6,100	6,249	6,378
	内、施設使用料 J	45,644	46,515	45,863	45,137	48,005	27,588
	自主事業費 K	0	0	0	0	0	0
支出計(F+K) L	58,764	58,917	59,208	58,484	60,043	39,494	
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	0	0	0	0	0	0	
事業収支 E-L		1,589	2,396	1,638	1,367	3,559	-3,194
利用料金収入比率 B/E		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
人件費比率 G/L		6.6%	6.6%	6.6%	6.9%	4.2%	6.6%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	-	-
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	-	-
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	-	-
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設6項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	3	回
		管理運営協議回数	12	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>利用者に対し提示物等による施設利用時の注意喚起を行い、安全管理に努めた。適正な月極台数の設定と割引券の堅調な販売実績を上げた。</p> <p>(所管評価)</p> <p>経営の安定が、管理の安心につながっている。場内でのトラブル等の対応など、利用者の安全を最優先とした対応の仕方などは評価できる。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 3)

公の施設の名称	尾道市営駐車場(中央、長崎)		
所在地	尾道市土生町1899-31・2579-1		
指定管理者	団体名	一般社団法人 因島観光協会	
	所在地	尾道市土生町1899-31	
指定期間	平成 31 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日		
選定方法	<input type="radio"/> 公募	<input type="radio"/> 非公募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="radio"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 1 年目		
施設設置目的	近隣の商業店舗利用者、企業勤務者の駐車場としての利用。地域の活性化のためのコミュニティ施設の利用。		
主な実施事業	駐車料金の徴収、建物の維持管理。貸店舗業務。		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 施設利用料	千円	43,005	44,431	42,840	45,762	44,042	45,657	44,042	47,147	45,637	44,488	44,000	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	0	0	0	0	0	0
	利用料金収入 B	44,431	45,762	45,657	47,147	44,488	44,000
	自主事業収入 C	0	0	0	0	0	0
	その他 D	0	0	0	0	0	0
	収入計(A~Dの計) E	44,431	45,762	45,657	47,147	44,488	44,000
支出	指定事業費 F	39,306	40,119	41,360	42,615	42,813	42,961
	内、人件費 G	12,318	12,327	13,262	14,399	14,552	14,900
	内、修繕費 H	0	0	0	50	0	0
	内、再委託料 I	4,478	4,462	4,167	4,375	4,571	4,570
	内、施設使用料 J	15,595	16,062	16,026	16,548	15,660	15,280
	自主事業費 K	0	0	0	0	0	0
支出計(F+K) L	39,306	40,119	41,360	42,615	42,813	42,961	
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	0	0	0	0	0	0	
事業収支 E-L		5,125	5,643	4,297	4,532	1,675	1,039
利用料金収入比率 B/E		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
人件費比率 G/L		31.3%	30.7%	32.1%	33.8%	34.0%	34.7%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	S	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	S	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	S	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	3	回
		管理運営協議回数	12	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>定期契約台数の減少が収入減に大きく影響しました。近隣の駐車場の状況を調査した結果、空き地利用駐車場が増加しています。中央駐車場・長崎駐車場のメリット等のPRをして契約台数増に努めていきます。 引き続きアンケート結果に基づき、お客様のニーズに答えるべく、改修改善に努めていきます。</p> <p>(所管評価)</p> <p>場内でのトラブルの際、状況説明の一報をいち早く行うことができる点などは評価できる。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 4)

公の施設の名称	尾道市総合福祉センター		
所在地	尾道市門田町22-5		
指定管理者	団体名	社会福祉法人尾道市社会福祉協議会	
	所在地	尾道市門田町22-5	
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日		
選定方法	公募	○	非公募
料金制導入区分	利用料金	○	使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間5年のうち4年目		
施設設置目的	児童、高齢者、障害者(児)、母子等に対して各種の福祉サービスを提供するとともに、市民に対する保健サービスを充実し、併せて市民、市民組織等の協力による福祉保健活動を助長し、もって総合的に市民の福祉と健康の増進を図るため。		
主な実施事業	老人福祉センター事業、障害者福祉センター事業、母子・父子福祉センター事業、児童センター事業、保健センター事業		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 利用人数	人	-	111,502	-	131,921	-	132,208	-	106,017	-	117,424	-	
② 利用件数	件	-	3,661	-	4,002	-	4,286	-	3,712	-	3,959	-	
③ 稼働率(件数)	%	-	44.9%	-	48.7%	-	52.0%	-	45.0%	-	48.4%	-	
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	1,120	1,117	1,103	1,135	1,225	1,687
	利用料金収入 B	0	0	0	0	0	0
	自主事業収入 C	0	0	0	0	0	0
	その他 D	0	0	0	0	0	17
	収入計(A~Dの計) E	1,120	1,117	1,103	1,135	1,225	1,704
支出	指定事業費 F	1,080	1,077	1,063	1,094	1,176	1,626
	内、人件費 G	1,080	1,077	1,063	1,094	1,176	1,626
	内、修繕費 H	0	0	0	0	0	0
	内、再委託料 I	0	0	0	0	0	0
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	40	40	40	41	49	78
支出計(F+K) L	1,120	1,117	1,103	1,135	1,225	1,704	
使用料収入(市へ直接収納) M	490	360	440	280	356	360	
減免金額 N	307	299	143	52	69	50	
事業収支 E-L	0	0	0	0	0	0	
利用料金収入比率 B/E		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
人件費比率 G/L		96.4%	96.4%	96.4%	96.4%	96.0%	95.4%
使用料収入比率 M/*1		30.4%	24.4%	28.5%	19.8%	22.5%	17.4%
減免金額比率 N/*2		38.5%	45.4%	24.5%	15.7%	16.2%	12.2%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明 (必要に応じて記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の収入「その他」は、法人からの繰入金。 ・支出の「自主事業費」は消費税相当額を記載。
---------------------	---

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	-	-
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設22項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	6	回
		管理運営協議回数	6	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>児童・高齢者・障害者・母子父子等を対象に各種福祉サービスを提供し、各種ボランティア団体や町内会等が活動する場所として活用されている。また、市民の社会福祉活動及び教養・文化活動の拠点として適切な管理に努めている。併せて、様々な悩み事を抱えて来所される方へ適切に対応するため、館内の組織と連携を深めた。</p> <p>令和2年2月より、行政及び関係機関と連携をとりながら貸館の利用制限や行事等の中止、館内の消毒等の新型コロナ感染拡大防止に努めた。</p> <p>(所管評価)</p> <p>総合福祉センターの運営に関して、仕様書等を遵守し概ね要求水準が満たされたものとなっている。施設利用者の利便性向上に資する取り組みや、新型コロナウイルスの感染拡大防止に関する対策案など、指定管理者側から積極的に提案を行うなど、尾道市との綿密な連携に努めていることも評価できる。</p> <p>利用者アンケートに書かれた要望等については、即座に対応できるものは指定管理者で迅速に対応し、必要に応じて尾道市に協議を行うなど、綿密な連携が実施されており評価できる。</p> <p>今後も各種サービスの向上・充実に努め、利用促進に繋げてもらいたい。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 5)

公の施設の名称	尾道市向島福祉支援センター		
所在地	尾道市向島町5888-2		
指定管理者	団体名	社会福祉法人尾道市社会福祉協議会	
	所在地	尾道市門田町22-5	
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 令和 3 年 3 月 31 日		
選定方法	公募	<input type="radio"/>	非公募
料金制導入区分	利用料金	<input type="checkbox"/>	使用料(市へ直接収納) <input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 4 年目		
施設設置目的	地域の福祉保健活動の拠点施設として、市民の福祉の向上と健康の増進を図るため。		
主な実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の福祉保健活動の支援及び活動に必要な場の提供 ・地域の福祉保健活動を担う人材育成等の支援 など 		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 利用人数	人	7,500	9,722	9,000	8,849	9,000	7,846	9,000	7,666	8,000	7,338	7,500	
② 利用件数	件	650	778	700	735	700	620	700	556	600	580	600	
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	0	0	0	0	0	99
	利用料金収入 B	0	0	0	0	0	0
	自主事業収入 C	0	0	0	0	0	0
	その他 D	0	0	0	0	0	0
	収入計(A~Dの計) E	0	0	0	0	0	99
支出	指定事業費 F	0	0	0	0	0	99
	内、人件費 G	0	0	0	0	0	99
	内、修繕費 H	0	0	0	0	0	0
	内、再委託料 I	0	0	0	0	0	0
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	0	0	0	0	0	0
支出計(F+K) L	0	0	0	0	0	99	
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	0	0	0	0	0	0	
事業収支 E-L	0	0	0	0	0	0	
利用料金収入比率 B/E		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
人件費比率 G/L		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明

(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	-	-
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	-	-
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	-	-
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設20項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	4	回
		管理運営協議回数	4	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>ボランティア活動等の拠点として、有効に活用することができた。 また、来所される方へ適切に対応するため、館内の組織と連携を深めた。 令和2年2月より、行政及び関係機関と連携をとりながら貸館の利用制限や行事等の中止、館内の消毒等の新型コロナ感染拡大防止に努めた。</p> <p>(所管評価)</p> <p>向島福祉支援センターの運営に関して、仕様書等を遵守し概ね要求水準が満たされたものとなっている。 また、指定管理者と連携を密にし、施設老朽化による修繕の実施や、その他個別の課題に対して、迅速に対応ができたことも評価できる。 当該年度は、利用者アンケートに職員の接遇についてお褒めの言葉等も記載されており、利用者に対して適切な対応を行っていることが伺えた。その他尾道市に協議が必要な案件は迅速に協議が行われており、こちらの要求水準を満たしていると評価できる。 今後も引き続き高い水準での対応を維持するとともに、より良い対応を行っていくことを期待したい。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

[様式-1]

(所管部署) 福祉保健部 因島福祉課

令和 元 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 6)

公の施設の名称	すばく因島		
所在地	尾道市因島中庄町4601		
指定管理者	団体名	因島ゲートボール協会	
	所在地	尾道市因島中庄町2909	
指定期間	平成 29 年 4 月 1 日 ~ 令和 2 年 3 月 31 日		
選定方法	公 募	<input type="radio"/> 非 公 募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="checkbox"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="checkbox"/> 無料施設
評価年度	指定期間 3 年のうち 3 年目		
施設設置目的	ゲートボールを通じて、高齢者の健康の維持を図り、併せて地域住民との世代間交流を促進し、地域支え合い及び地域福祉の向上に寄与することを目的とする。		
主な実施事業	定期的なゲートボール大会の開催、施設内の清掃作業、小学校とのゲートボール交流		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 利用延人数	人	-	11,304	-	11,512	-	9,809	-	9,095	-	9,165	-	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	236	236	236	236	239	240
	利用料金収入 B	23	22	15	183	192	195
	自主事業収入 C	0	0	0	592	498	466
	その他 D	284	259	261	409	323	266
	収入計(A~Dの計) E	543	517	512	1,420	1,252	1,167
支出	指定事業費 F	468	432	428	396	347	360
	内、人件費 G	0	0	0	0	0	0
	内、修繕費 H	0	0	0	0	0	0
	内、再委託料 I	0	0	0	0	0	0
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	0	0	0	1,022	639	675
支出計(F+K) L	468	432	428	1,418	986	1,035	
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	0	0	0	0	0	0	
事業収支 E-L	75	85	84	2	266	132	
利用料金収入比率 B/E	4.2%	4.3%	2.9%	12.9%	15.3%	16.7%	
人件費比率 G/L	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
使用料収入比率 M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率 N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明	
(必要に応じて記述)	

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目	評価基準	自己評価	所管評価	
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	3	回
		管理運営協議回数	1	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>利用者は毎日、会員が自分の都合の良い時間に練習をしている。毎年、大会の開催と施設の美化活動を行い、施設内の美化は保たれており、会員個々が施設を適切に管理して使用している。施設内は禁煙としているが、今後は定期的な消防避難訓練など、更に充実を図っていく。</p> <p>(所管評価)</p> <p>施設の管理は会員の美化活動により、適切に保たれている。利用者は当会員中心のため、普段は一部の利用者に限られるが、大会開催時には近隣から多くの参加者が集い施設の利用促進に努めている。また近隣の認定こども園との交流など、更なる利用者の拡大に期待している。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

[様式-1]

(所管部署) 福祉保健部 因島福祉課

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 7)

公の施設の名称	尾道市因島デイサービスセンター		
所在地	尾道市因島田熊町940番地3		
指定管理者	団体名	社会福祉法人尾道市社会福祉協議会	
	所在地	尾道市門田町22番5号	
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日		
選定方法	公募	○	非公募
料金制導入区分	○	利用料金	使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間5年のうち4年目		
施設設置目的	在宅の要援護高齢者に対し、通所の方法により、各種サービスを提供することによって、生活の助長、社会的孤立感の解消及び心身機能の維持向上等を図るとともに、その家族の身体的又は精神的な負担の軽減を図るため、介護保険法第7条第11項に規定する通所介護施設として、併せて在宅高齢者を対象とした介護予防を推進するため。		
主な実施事業	入浴サービス、配食サービス、日常動作訓練、介護方法の指導、その他必要なサービス、		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 利用延数	人	-	6,943	-	7,088	-	6,990	-	6,331	-	6,505	-	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	0	0	0	0	0	0
	利用料金収入 B	65,637	68,679	67,615	60,769	63,207	69,495
	自主事業収入 C	0	0	0	0	0	0
	その他 D	55	33	68	17	28	30
	収入計(A~Dの計) E	65,692	68,712	67,683	60,786	63,235	69,525
支出	指定事業費 F	79,120	70,022	67,684	66,960	68,255	71,316
	内、人件費 G	61,645	53,489	50,458	49,886	52,357	51,560
	内、修繕費 H	664	597	552	784	661	900
	内、再委託料 I	0	0	0	0	0	0
	内、施設使用料 J	2,300	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	自主事業費 K	0	0	0	0	0	0
	支出計(F+K) L	79,120	70,022	67,684	66,960	68,255	71,316
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	0	0	0	0	0	0	
事業収支 E-L		-13,428	-1,310	-1	-6,174	-5,020	-1,791
利用料金収入比率 B/E		99.9%	100.0%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%
人件費比率 G/L		77.9%	76.4%	74.5%	74.5%	76.7%	72.3%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明

(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	B	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	B	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	B	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	B	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	3	回
		管理運営協議回数	1	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>令和元年度因島地域では2か所の通所介護事業所が閉鎖した。高齢者は増えているが、過疎化によりひとり暮らしが困難な高齢者が増えて、施設入所・ショートステイ、社会的入院が増えて、デイサービス以上の介護が求められることが多くなっている。</p> <p>(所管評価)</p> <p>施設内設備の老朽化から、職員が対策をしながら運営している。利用者のニーズの変化により、利用者も減少して収支は厳しい状況である。利用アンケートでは当施設の利用の満足度も高く、今後、他施設の通所介護事業所の閉鎖に伴う利用者拡大に期待する。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 8)

公の施設の名称	向島漁村センター		
所在地	尾道市向島町20074-7		
指定管理者	団体名	向島町漁業協同組合	
	所在地	尾道市向島町20074-4	
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 令和 3 年 3 月 31 日		
選定方法	公 募	○	非 公 募
料金制導入区分	○	利用料金	使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 4 年目		
施設設置目的	漁村の振興と漁業者の育成並びに産業、経済及び文化の向上を図るため。		
主な実施事業	向島漁村センターの管理運営。船舶免許更新手続きや漁協総会等の実施時に貸室業務を行う。		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① センター稼働日数	日	5	7	5	7	5	5	5	6	5	6	5	
② センター利用者数	人	200	153	200	252	200	138	200	172	200	212	200	
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	0	0	0	0	0	0
	利用料金収入 B	3	3	3	7	7	3
	自主事業収入 C	0	0	0	0	0	0
	その他 D	227	198	195	195	193	197
	収入計(A~Dの計) E	230	201	198	202	200	200
支出	指定事業費 F	230	201	198	202	193	200
	内、人件費 G	0	0	0	0	0	0
	内、修繕費 H	0	0	0	0	0	0
	内、再委託料 I	0	0	0	0	0	0
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	0	0	0	0	0	0
支出計(F+K) L	230	201	198	202	193	200	
使用料収入(市へ直接収納) M		0	0	0	0	0	0
減免金額 N		18	18	6	13	13	0
事業収支 E-L		0	0	0	0	7	0
利用料金収入比率 B/E		1.3%	1.5%	1.5%	3.5%	3.5%	1.5%
人件費比率 G/L		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		85.7%	85.7%	66.7%	65.0%	65.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明

(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	-	-
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設22項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	-	-
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	B	B
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設8項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	6	回
		管理運営協議回数	3	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>毎年、民間団体等行事の開催場所として、利用いただいております。令和元年度においては、漁業者等の免許更新の会場として利用がありました。その他、組合員が直売所出荷のため出荷調整場として利用しております。また、9月からは魚の朝市会場として利用しております。</p> <p>指定管理制度の開始当時から管理を行っており、また所在地が指定管理団体に近接した場所にあることから、適切かつ安定した管理体制を維持できていると考えております。</p> <p>(所管評価)</p> <p>利用者アンケートの総合満足度では「普通」以上が8割を上回る回答であったが、H30年度に比べ「とても満足」「まあまあ満足」がいずれも低下しており、アンケート結果に基づき改善し、満足度を高める必要がある。</p> <p>広報活動などにより更に新たな利用者の掘り起こしと隣接の海岸で潮干狩りを漁協が主体で実施しており、敷地内でイベント開催や本施設の積極的な利用を検討する必要がある。</p> <p>引き続き、利用者アンケートの実施と周辺イベント参加者のニーズ把握により、更なるサービスの向上、利用者の増加と積極的な施設利用を図っていくことを確認した。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 9)

公の施設の名称	向島洋らんセンター		
所在地	尾道市向島町3090番地1		
指定管理者	団体名	株式会社オーキッド向島	
	所在地	尾道市向島町3086番地	
指定期間	平成 29 年 4 月 1 日 ~ 令和 2 年 3 月 31 日		
選定方法	公募	○	非公募
料金制導入区分	○	利用料金	使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間 3 年のうち 3 年目		
施設設置目的	農業の振興及び地域の交流のための施設として設置		
主な実施事業	向島洋らんセンターの管理運営。 受託事業として、施設の利用許可、施設の維持管理。自主事業として洋ランの生産・販売事業。		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 利用者数	人	40,000	48,398	40,000	42,508	40,000	37,822	40,000	35,739	40,000	40,050	40,000	
② 自主事業ラン販売	千円	53,000	79,304	53,000	79,360	53,000	79,231	53,000	78,088	53,000	71,167	53,000	
③ 施設使用料	千円	450	273	450	326	450	172	450	97	450	109	450	
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	6,171	6,171	6,171	6,171	6,228	6,286
	利用料金収入 B	273	326	131	97	137	120
	自主事業収入 C	79,304	79,360	79,232	78,088	71,167	76,162
	その他 D	83	93	84	199	69	117
	収入計(A~Dの計) E	85,831	85,950	85,618	84,555	77,601	82,685
支出	指定事業費 F	7,558	6,699	7,126	7,224	6,992	7,114
	内、人件費 G	3,171	2,907	3,171	3,171	3,435	3,435
	内、修繕費 H	13	56	63	103	72	79
	内、再委託料 I	868	874	881	1,116	865	865
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	71,339	78,331	78,279	73,144	74,528	75,317
支出計(F+K) L	78,897	85,030	85,405	80,368	81,520	82,431	
使用料収入(市へ直接収納) M		0	0	0	0	0	0
減免金額 N		85	0	0	0	0	0
事業収支 E-L		6,934	920	213	4,187	-3,919	254
利用料金収入比率 B/E		0.3%	0.4%	0.2%	0.1%	0.2%	0.1%
人件費比率 G/L		4.0%	3.4%	3.7%	3.9%	4.2%	4.2%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		23.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明	
(必要に応じて記述)	

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
	緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A
		緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A
		緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
	《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	10	回
		管理運営協議回数	4	回
所見 (成果、課題等)	(自己評価) 地域の拠点施設としての機能を高めていくために、日頃から地域住民が集まりやすい交流の場として門戸を開き、地域のコミュニティーとしての活用や、災害に対する避難所としての意識高揚、さらに自主事業による地域雇用の創出に努力しています。とりわけ、自主事業の洋ラン栽培は施設のブランド化に大きく貢献しており、高品質な洋ランをイメージしたイベントの開催や施設の利用など、近年増加するサイクリストや外国人観光客も含めて地域内外の交流人口の増大に寄与しています。 現在は新型コロナウイルス情勢により入場者数は落ち込みを見せていますが、地域のイベント会場に選ばれるなど、地元との連携も定着しつつあり、この間の取り組みが認められた実感があります。 また、施設内の植栽管理やバリアフリー化に取り組むことで、子どもから高齢者までが緑豊かな自然に囲まれて、安全安心に施設を利用出来る環境を提供し、健康で心安らぐ福祉の増進にも取り組んでいます。			
	(所管評価) 受託事業については、仕様書等を順守し、概ね要求水準を満たしている。利用者アンケートにおいても、総合的満足度は高い。平成30年度施設利用者数は豪雨災害の影響もあり、前年度から減少したが、令和元年度においては災害の前年度を上回る入場者があった。自主事業の洋ラン栽培・販売により、施設の価値を高め、来訪者の確保ができていと思われる。 収支については、コロナウイルス情勢下においてもラン販売収入は堅調であるが、諸経費の高止まりにより、利益は伸び悩んでいる。独自イベントの開催など、精力的な取り組みを行っており、引き続き農業振興・地域住民の交流の場としての設置目的が十分発揮できるよう、今後も管理運営して頂きたい。			
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 10)

公の施設の名称	尾道市千光寺山索道事業施設		
所在地	尾道市東土堂町20-1		
指定管理者	団体名	おのみちバス株式会社	
	所在地	尾道市東尾道18番地1	
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日		
選定方法	<input type="radio"/> 公募	<input type="radio"/> 非公募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="radio"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間5年のうち1年目		
施設設置目的	千光寺公園への交通の利便を図ることにより、観光振興に寄与する。		
主な実施事業	千光寺山ロープウェイの管理運営と維持管理		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 利用人数	人	330,000	415,271	400,000	454,546	410,000	488,953	500,000	436,333	400,000	487,191	450,000	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区分		平成27年度決算	平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度決算	H元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	0	0	0	0	0	0
	利用料金収入 B	118,857	129,330	140,782	118,336	132,217	120,180
	自主事業収入 C	3,565	3,595	3,282	3,061	2,832	1,583
	その他 D	0	0	0	0	0	0
	収入計(A~Dの計) E	122,422	132,925	144,064	121,397	135,049	121,763
支出	指定事業費 F	76,979	91,927	93,785	78,731	94,831	95,360
	内、人件費 G	43,323	45,446	46,726	46,916	46,820	47,518
	内、修繕費 H	1,044	336	2,424	229	847	410
	内、再委託料 I	7,333	7,160	8,714	7,424	8,539	9,084
	内、施設使用料 J	20,000	20,000	20,000	20,000	30,000	30,000
	自主事業費 K	1,909	19,276	17,796	16,557	10,696	9,701
支出計(F+K) L	78,888	111,203	111,581	95,288	105,527	105,061	
使用料収入(市へ直接収納) M		0	0	0	0	0	0
減免金額 N		300	215	294	228	171	200
事業収支 E-L		43,534	21,722	32,483	26,109	29,522	16,702
利用料金収入比率 B/E		97.1%	97.3%	97.7%	97.5%	97.9%	98.7%
人件費比率 G/L		54.9%	40.9%	41.9%	49.2%	44.4%	45.2%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.2%	0.2%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目	評価基準	自己評価	所管評価	
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	S	S
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	S	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	S	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	S	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	S	S
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	S	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
	緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A
		緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	S	S
		緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	S	S
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	S	S
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目/本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	12	回
		管理運営協議回数	12	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>継続的な観光客の誘致と増加、リピーターの定着を目指す中で、安全運行の継続を最優先とした営業で約48万人という利用客でした。また、プライバシーマークの取得・キャッシュレス対応・ホームページのリニューアルやSNSによる情報発信モデルの充実など、より一層利用客に寄り添った営業体制が整ったと思います。自主事業イベントも新規企画として会場を千光寺公園全体に広げた参加型大型イベントを開催し、公園全体の活性化にも努めました。2020年に入り新型コロナウイルス感染拡大を受け、利用客は大幅にダウンしたものの、感染拡大の発表に先んじて定期的な消毒や乗車定員を減員しての運行、そして速やかな運休対応と、地元市民や利用客の不安を軽減する努力をしてまいりました。</p> <p>(所管評価)</p> <p>3月は新型コロナウイルス感染拡大の影響で利用者の大幅な減少があったものの、年度合計では豪雨災害の影響があったH30年度から約12%増、H29年度とはほぼ同程度の実績があり、特別な要因を除けば利用者は年々増加傾向にあるといえる。</p> <p>次年度も継続して影響があると考えられる新型コロナウイルス感染拡大防止対策にしっかりと対応し、引き続き利用者の利便性の向上に向けての取り組みを行っていく必要がある。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	<p>S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。</p> <p>A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。</p> <p>B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。</p> <p>C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。</p>
《総括》:	<p>S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。</p> <p>A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】</p> <p>B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】</p> <p>C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。</p>
総合評価:	<p>S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。</p> <p>A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】</p> <p>B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】</p> <p>C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。</p>

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 11)

公の施設の名称	尾道市道の駅		
所在地	尾道市御調町大田33番地		
指定管理者	団体名	株式会社みつぎ交流館	
	所在地	尾道市御調町大田33番地	
指定期間	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 令和 2 年 3 月 31 日		
選定方法	<input type="radio"/> 公募	<input type="radio"/> 非公募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="radio"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 5 年目		
施設設置目的	地域間交流と各種情報の受発信及び地場産品の販売を通じて、交流人口の増加と産業の活性化を図り、魅力ある地域社会の形成に貢献するため。		
主な実施事業	1) 広域的な交流を深める事業及びその事業を行うための場所の提供。 2) 物産の展示、販売及び飲食物の提供。 3) その他目的を達成するために必要な事業。		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 来場者数	千人	380	443	398	381	392	348	365	310	330	300	240	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	0	0	0	0	0	0
	利用料金収入 B	5,647	5,647	5,647	5,647	5,647	5,727
	自主事業収入 C	123,610	106,067	98,444	89,029	85,299	94,747
	その他 D	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
	収入計(A~Dの計) E	130,757	113,214	105,591	96,176	92,446	101,974
支出	指定事業費 F	6,463	6,247	6,729	6,584	5,873	6,234
	内、人件費 G	1,235	1,232	1,232	1,225	1,232	1,263
	内、修繕費 H	853	497	797	726	475	600
	内、再委託料 I	0	0	0	0	0	0
	内、施設使用料 J	5,224	4,364	4,104	3,985	3,985	4,000
	自主事業費 K	112,098	102,871	94,398	84,173	82,196	80,968
支出計(F+K) L	118,561	109,118	101,127	90,757	88,069	87,202	
使用料収入(市へ直接収納) M		0	0	0	0	0	0
減免金額 N		0	0	0	0	0	0
事業収支 E-L		12,196	4,096	4,464	5,419	4,377	14,772
利用料金収入比率 B/E		4.3%	5.0%	5.3%	5.9%	6.1%	5.6%
人件費比率 G/L		1.0%	1.1%	1.2%	1.3%	1.4%	1.4%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	12	回
		管理運営協議回数	12	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>令和元年度は、国道利用者の減少、近隣の道の駅や産直市等との競合、また年度末に全世界を襲った新型コロナウイルスの影響による来場者の減少も追い打ちとなり、売上減に歯止めをかけることができませんでした。昨年、利用促進策として立ち上げた御調町中心の有志による「チームクロスみつぎ」の活動では、町内のおすすめサイクリングコースの作成を皮切りに、Eバイク体験ツアーや夏まつりの開催にも取り組みました。新たな電子広告の活用、店頭販売の強化など、来場者UPへの地道なPRを行っています。</p> <p>(所管評価)</p> <p>令和元年度は、来場者、売上げが前年対比4%程度の減少となっている。地域活動を絡めたイベント開催によりPRに努めており、引き続き来場者UPへの取り組みを行っていただきたい。 年度末から始まった新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響は次年度も継続しているため、ネット配信、ネット販売等の強化や、店頭での販売方法の工夫、衛生管理の強化等、感染拡大防止対策に合った取り組みをおこない、継続できる運営を模索し実行する必要がある。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 12)

公の施設の名称	尾道市営住宅(単市、特公賃住宅含め合計69施設)		
所在地			
指定管理者	団体名	堀田・誠和共同企業体 代表者 株式会社 堀田組	
	所在地	尾道市新浜一丁目9番22号	
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 令和 3 年 3 月 31 日		
選定方法	<input type="radio"/> 公募	<input type="radio"/> 非公募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="radio"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 4 年目		
施設設置目的	国及び地方公共団体が協力して、健康で文化的な生活を営むに足る住宅を整備し、これを住宅に困窮する低額所得者に対して低廉な家賃で賃貸し、又は転貸することにより、国民生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的とする。		
主な実施事業	入居者管理に関する業務、設備の維持・保守・管理に関する業務、修繕に関する業務、その他左記に掲げる業務に付随する業務の管理運営。		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 家賃(現年度+過年度分)収納率	%			89.5	93.2	89.5	92.9	89.5	92.3	89.5	92.0	89.5	
② 家賃(現年度分)収納率	%	97.5	99.2										
③ 駐車場使用料(現年度分)収納率	%	100	100										
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	64,992	69,000	66,870	66,870	70,480	67,730
	利用料金収入 B	0	0	0	0	0	0
	自主事業収入 C	0	0	0	0	0	0
	その他 D	0	0	0	0	0	0
	収入計(A~Dの計) E	64,992	69,000	66,870	66,870	70,480	67,730
支出	指定事業費 F	64,992	69,000	66,870	66,870	70,480	67,730
	内、人件費 G	14,880	14,880	14,880	14,880	14,880	14,880
	内、修繕費 H	46,039	49,574	47,416	47,494	55,600	52,850
	内、再委託料 I	0	0	0	0	0	0
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	0	0	0	0	0	0
支出計(F+K) L	64,992	69,000	66,870	66,870	70,480	67,730	
使用料収入(市へ直接収納) M		272,975	268,530	260,810	257,387	256,128	259,150
減免金額 N		0	0	0	0	0	0
事業収支 E-L		0	0	0	0	0	0
利用料金収入比率 B/E		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
人件費比率 G/L		22.9%	21.6%	22.3%	22.3%	21.1%	22.0%
使用料収入比率 M/*1		80.8%	79.6%	79.6%	79.4%	78.4%	79.3%
減免金額比率 N/*2		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明

(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	-	-
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	-	-
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設21項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	4	回
		管理運営協議回数	12	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>指定管理業務基準書に基づいて公平かつ公正な安定したサービスを提供している。管理業務については、概ね業務水準を満たしていると思われるが、収納業務において、協定収納率は満たしているが、入居者の納付状況に応じた納付指導と事務取扱要領に基づいた督促により収納率の向上は見込められると思われる。当該年度当初に消防訓練ならびに、自治会との地域との交流を深めるため住宅集会所での「シルバーリハビリ体操」を開催しました。 今後も、入居者とのコミュニケーションの積み重ねにより信頼関係の構築に努める。</p> <p>(所管評価)</p> <p>前期指定期間を合算すれば7年を経過し、入居者にも広く認知されてきており、令和元年度に実施した入居者アンケートでの入居者の評価も高かった。また、日常の管理業務においてもスムーズな業務の遂行に努め、総合的に概ね良好な管理業務を行っている。 セーフティネット住宅として市営住宅の必要性は高く、計画的な修繕により空戸の供給を進めてもらいたい。 また、滞納家賃等の回収にあたっては、適正な債権回収により収納率の向上を図ってもらいたい。 令和2年度も引き続き市と連携を取りながら、課題解消に向けた取り組みを行い、入居者サービスの向上に努めてもらいたい。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 13)

公の施設の名称	尾道市因島アメニティプール		
所在地	尾道市因島大浜町57番地		
指定管理者	団体名	株式会社ベッセルテクノサービス	
	所在地	広島県福山市南本庄三丁目4番27号	
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日		
選定方法	<input type="radio"/> 公募	<input type="radio"/> 非公募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="radio"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間5年のうち3年目		
施設設置目的	高い親水性を活かした市民及び来訪者のレクリエーション施設として設置されている。		
主な実施事業	プールの管理運営。利用許可、利用料金の徴収。		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 入場者数	人	23,000	25,263	23,000	30,031	23,000	30,312	23,000	21,833	23,000	25,424	23,000	
② 利用料収入+雑収入	千円	11,300	13,689	11,500	16,281	14,000	16,646	14,120	13,104	14,240	15,129	14,360	
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	3,000	3,000	2,000	2,000	2,007	2,037
	利用料金収入 B	9,459	11,250	11,189	7,271	8,237	8,350
	自主事業収入 C	4,230	5,031	5,457	5,833	6,892	6,010
	その他 D	0	0	0	0	0	0
	収入計(A~Dの計) E	16,689	19,281	18,646	15,104	17,136	16,397
支出	指定事業費 F	14,026	16,803	17,563	17,487	18,125	16,250
	内、人件費 G	4,747	6,673	6,504	6,662	7,843	5,000
	内、修繕費 H	75	736	878	338	145	600
	内、再委託料 I	772	784	773	864	856	820
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	0	0	0	0	0	0
支出計(F+K) L	14,026	16,803	17,563	17,487	18,125	16,250	
使用料収入(市へ直接収納) M		0	0	0	0	0	0
減免金額 N		16	21	31	21	100	100
事業収支 E-L		2,663	2,478	1,083	-2,383	-989	147
利用料金収入比率 B/E		56.7%	58.3%	60.0%	48.1%	48.1%	50.9%
人件費比率 G/L		33.8%	39.7%	37.0%	38.1%	43.3%	30.8%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	1.2%	1.2%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明 (必要に応じて記述)	天候不順・台風の影響により入場者数は思ったより増加しなかった。 特にお盆期間の8/15、8/16の台風による臨時休園が影響した。
---------------------	---

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
	《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	6	回
		管理運営協議回数	16	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>R元年度は弊社指定管理者として通算6年目(1期目3年+2期目3年目)となり、開園日数は過去最多の56日間営業したが、内3日間は天候不順・台風の影響により入場者数は思ったより増加しなかった。特にお盆期間の8/15、8/16の台風による臨時休園が大きく影響し大きな収入増加にはつながらなかった。</p> <p>H30年度より新しい取り組みとして、テントサイトの有料貸出もお客様に浸透し自主事業収入は増加しています。H26度よりアンケート結果を基にした対応や修繕にて好感度・リピート率のアップが順調に図れております。引き続き広告宣伝にも注力していきます。</p> <p>(所管評価)</p> <p>昨年度は豪雨災害により開園日数・利用者数・利用料金収入ともに低水準であったが、今年度は7月6日から開園し、利用者数は25,424人で前年比16%増、利用料収入は8,237千円で前年比13%増となり、事業収支は989千円の赤字(前年は2,383千円の赤字)となった。1,000人以上の入場が見込まれたお盆(8/15・8/16)が台風による臨時休園になったことが収支に影響した。</p> <p>アンケート結果では安全面、衛生面、スタッフ対応等の評価は昨年度よりも上がっている。事業収支が天候に左右されやすい状況にあるが、今後も情報発信や売店商品の工夫等指定管理者の強みを生かした取り組みを行い、安定した事業収入を確保し、利用者本位の運営を期待する。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 14)

公の施設の名称	因島水軍城		
所在地	尾道市因島中庄町3228-2		
指定管理者	団体名	一般社団法人 因島観光協会	
	所在地	尾道市因島土生町1899-31	
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 令和 3 年 3 月 31 日		
選定方法	公 募	○	非 公 募
料金制導入区分	○	利用料金	使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 4 年目		
施設設置目的	因島村上海賊の歴史・遺品を後世に伝えるため		
主な実施事業	入場料金の徴収、建物・周辺の維持管理。自主事業として企画展・特別展の開催。		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 入場者数	人	24千	33,233	30千	40,938	40千	38,239	40千	27,009	33千	33,262	13千	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	4,551	3,700	3,700	3,700	3,734	3,769
	利用料金収入 B	8,715	10,650	9,915	6,826	8,401	3,192
	自主事業収入 C	0	0	0	186	141	53
	その他 D	0	0	0	0	0	0
	収入計(A~Dの計) E	13,266	14,350	13,615	10,712	12,276	7,014
支出	指定事業費 F	9,623	9,744	10,223	8,827	10,230	7,747
	内、人件費 G	3,491	3,665	3,475	3,781	4,287	3,890
	内、修繕費 H	963	122	839	261	399	255
	内、再委託料 I	1,141	1,251	1,343	1,277	1,323	1,200
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	308	839	843	622	967	300
支出計(F+K) L	9,931	10,583	11,066	9,449	11,197	8,047	
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	456	593	657	531	748		
事業収支 E-L	3,335	3,767	2,549	1,263	1,079	-1,033	
利用料金収入比率 B/E	65.7%	74.2%	72.8%	63.7%	68.4%	45.5%	
人件費比率 G/L	35.2%	34.6%	31.4%	40.0%	38.3%	48.3%	
使用料収入比率 M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率 N/*2	5.0%	5.3%	6.2%	7.2%	8.2%		

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明	
(必要に応じて記述)	

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	B	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	8	回
		管理運営協議回数	14	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>日本遺産認定の国からの補助金は終了しましたが、特別展・巡回展を継続して開催しています。又、特別展の内容に合う資料として、椋浦史料館にあった千石船を借用し、新たな名物として展示し喜ばれています。</p> <p>昨年度の入場者数の落ち込みを挽回しつつ、今年度は良い形で終了の予定でしたが、3月から新型コロナウイルス感染症の影響により激減したのは残念です。</p> <p>しかしながら対前年度比で入場者数・入場料とも約23%増となりました。</p> <p>(所管評価)</p> <p>前年度は豪雨災害の影響があったが、今年度は入場者数は33,262人で前年比23%増、利用料金収入は8,401千円で前年比23%増となった。ただ、ここ5年の状況を見れば平成27年度と同程度で例年並みである。</p> <p>アンケート評価は昨年と同様良好であり、接客や清掃状況も問題はなかった。来年度、コロナウイルスの影響が憂慮されるが、広報宣伝やおもてなしを積極的に行い、利用者数の増加を期待する。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 15)

公の施設の名称	因島漁船等巻揚施設		
所在地	尾道市因島土生町1752-12地先		
指定管理者	団体名	因島市漁業協同組合	
	所在地	尾道市因島土生町256-6	
指定期間	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 令和 2 年 3 月 31 日		
選定方法	公 募	○	非 公 募
料金制導入区分	○	利用料金	使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 5 年目		
施設設置目的	漁船等の安全な操業と維持管理を図るために計画的な整備、補修等を行う場を提供し、漁業経営の安定等に資するため。		
主な実施事業	巻揚施設の管理運営		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 利用者数	人	200	200	200	188	200	159	200	159	200	153	200	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	0	0	0	0	0	0
	利用料金収入 B	676	660	662	581	571	650
	自主事業収入 C	0	0	0	0	0	0
	その他 D	0	0	0	0	0	0
	収入計(A~Dの計) E	676	660	662	581	571	650
支出	指定事業費 F	667	936	678	727	474	650
	内、人件費 G	0	0	0	0	0	0
	内、修繕費 H	667	936	678	727	474	650
	内、再委託料 I	0	0	0	0	0	0
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	0	0	0	0	0	0
支出計(F+K) L	667	936	678	727	474	650	
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	0	0	0	0	0	0	
事業収支 E-L	9	-276	-16	-146	97	0	
利用料金収入比率 B/E	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
人件費比率 G/L	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
使用料収入比率 M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率 N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	-	-
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	-	-
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設21項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	-	-
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	-	-
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	-	-
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設6項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	2	回
		管理運営協議回数	1	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>運営管理は適切に処理しており、利用者から良い評価を受けている。</p> <p>(所管評価)</p> <p>令和元年度の巻揚げ施設について、船台本体に対する修繕が発生し、長期間使用できなかったため、利用者数は減少した。その分の収入は低下したが、支出を必要なものに限るなど努力をしており、運営管理については適切に処理されている。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 16)

公の施設の名称	尾道ふれあいの里		
所在地	尾道市御調町高尾1369		
指定管理者	団体名	株式会社みつぎ交流館	
	所在地	尾道市御調町大田33	
指定期間	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 令和 2 年 3 月 31 日		
選定方法	<input type="radio"/> 公募	<input type="radio"/> 非公募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="radio"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 5 年目		
施設設置目的	宿泊研修、野外活動を通じて青少年の健全な育成を図るとともに、憩いと安らぎの場の提供等により青少年から高齢者まで各世代にわたる健康の増進を図り、もって住民福祉の向上に資するため。		
主な実施事業	尾道ふれあいの里の管理運営。日帰り温泉・食事・宴会・宿泊・研修等。		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 入浴者数	人	102,500	106,255	106,500	95,082	100,000	104,533	105,000	99,107	100,000	104,510	36,000	
② 温泉宴会バック利用者数	人	2,850	2,833	3,000	3,072	3,000	2,066	3,000	1,924	2,500	1,532	600	
③ 日帰り宴会利用者数	人	4,900	4,536	4,500	5,245	4,600	6,616	5,000	5,464	5,250	4,728	700	
④ 宿泊者数	人	22,000	26,058	26,500	30,118	30,000	28,564	30,000	25,048	28,500	28,389	10,000	
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	0	0	0	0	0	0
	利用料金収入 B	419,017	440,941	428,281	401,501	408,044	250,000
	自主事業収入 C	0	0	0	0	0	0
	その他 D	301	533	4,184	2	98	20,000
	収入計(A~Dの計) E	419,318	441,474	432,465	401,503	408,142	270,000
支出	指定事業費 F	412,375	440,917	441,111	403,370	414,301	300,000
	内、人件費 G	143,070	150,304	150,271	143,212	162,619	125,000
	内、修繕費 H	7,763	6,164	6,222	4,521	6,226	5,000
	内、再委託料 I	60,656	68,769	69,308	56,738	44,475	40,000
	内、施設使用料 J	11,647	12,263	12,012	11,153	8,762	10,000
	自主事業費 K	0	0	0	0	0	0
	支出計(F+K) L	412,375	440,917	441,111	403,370	414,301	300,000
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	0	0	0	0	0	0	
事業収支 E-L		6,943	557	-8,646	-1,867	-6,159	-30,000
利用料金収入比率 B/E		99.9%	99.9%	99.0%	100.0%	100.0%	92.6%
人件費比率 G/L		34.7%	34.1%	34.1%	35.5%	39.3%	41.7%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明 (必要に応じて記述)	「3 指定管理業務に係る収支状況」中の収入・支出の数値は税抜である(指定管理者の決算報告書に基づくため)。
---------------------	---

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	B
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
	緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A
		緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A
		緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	B	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	B	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	B	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	7	回
		管理運営協議回数	12	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>令和元年度は2月までは順調に推移しておりましたが、3月度からの新型コロナウイルスの多大なる影響により、まさかの赤字へと転落してしまった。来年度からも当面の間、まったく見通しが利かない状況となっております。</p> <p>(所管評価)</p> <p>令和元年度の売上は、6,540千円(前年比101.6%)の増となった。売上増の主な要因は、平成30年7月西日本豪雨災害による影響で減少していた利用者数の回復、インターネット販売等の活用促進による宿泊客の増加等と考える。</p> <p>また、客室清掃を自社で行う等の経費節減も進めるなど経営努力も行われている。</p> <p>決算としては、2月時点までの実績は前年度を上回っていたが、コロナ禍という想定が難しかった事態により、3月に大きく売上減が発生したため、最終的に赤字となった。</p> <p>令和2年度以降の5年間の指定管理者に再指定を行っている。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	B

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 17)

公の施設の名称	尾道市瀬戸田サンセットビーチ		
所在地	尾道市瀬戸田町垂水1506-15		
指定管理者	団体名	株式会社TM産業	
	所在地	尾道市瀬戸田町鹿田原35-5	
指定期間	平成 31 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日		
選定方法	<input type="radio"/> 公募	<input type="radio"/> 非公募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="radio"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 1 年目		
施設設置目的	市民の福祉増進を図り、野外スポーツ活動及び海洋スポーツ活動を通じて、交流の場として地域の発展向上を目的とする。		
主な実施事業	(1) サンセットビーチの施設及び広島県海岸環境整備事業に係る海浜施設(以下「附属施設」という。)の管理運営に関する事業 (2) 野外・海浜スポーツレクリエーションの振興に関する事業 (3) その他設置目的達成に必要な事業		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 施設利用者	千人	100	154	136	142	130	139	136	119	110	128	100	
② 海浜施設	千人	80	75	80	69	80	71	80	66	60	75	75	
③ 広場	千人	20	7	7	18	7	9	20	7	8	12	10	
④ 飲食	千人	12	21	20	18	20	22	12	15	15	13	13	
⑤ 物販	千人	8	20	13	17	13	15	8	12	8	5	7	

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	18,000	18,000	18,000	18,000	18,167	18,333
	利用料金収入 B	4,360	4,516	4,759	3,300	4,144	4,345
	自主事業収入 C	33,437	30,507	33,541	24,941	21,675	22,218
	その他 D	728	1,054	1,216	1,259	2,553	1,776
	収入計(A~Dの計) E	56,525	54,077	57,516	47,500	46,539	46,672
支出	指定事業費 F	24,430	25,473	26,044	25,427	24,032	27,107
	内、人件費 G	9,433	9,615	9,540	9,860	9,100	12,000
	内、修繕費 H	516	106	57	246	145	480
	内、再委託料 I	3,681	4,890	4,976	5,103	1,069	1,250
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	29,141	26,620	32,145	25,170	15,328	16,600
支出計(F+K) L	53,571	52,093	58,189	50,597	39,360	43,707	
使用料収入(市へ直接収納) M		0	0	0	0	0	0
減免金額 N		311	220	312	157	116	
事業収支 E-L		2,954	1,984	-673	-3,097	7,179	2,965
利用料金収入比率 B/E		7.7%	8.4%	8.3%	6.9%	8.9%	9.3%
人件費比率 G/L		17.6%	18.5%	16.4%	19.5%	23.1%	27.5%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		6.7%	4.6%	6.2%	4.5%	2.7%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
	緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A
		緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A
		緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	B
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	24	回
		管理運営協議回数	24	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>●成果: 収益バランスの見直しや業務の効率化による利益率向上などを行い、財務状況の改善・健全化を図った。</p> <p>●課題: 当施設の指定管理を請け負った時点で、施設や備品の老朽化等により景観が保たれていない状態であった。まずは、レストランテラスの天幕張替えを実施したが、景観の維持管理を計画的に実施し、より多くの人の憩いの場となるようなビーチしていきたい。そのためには、余剰金積立等による安定した運営基盤が必要である。</p> <p>(所管評価)</p> <p>指定管理者交代にあたり、物販・飲食等の業務切替や老朽等による施設の不具合箇所の課題があったと思われるが、利用者ニーズを損なうことなく円滑に運営を行った。</p> <p>受託事業であるレンタサイクル事業については、しまなみ海道の拠点施設として利用者の増加と多様なニーズへの対応を適正に行った。しかしながら業務分担に不明確な点があるため、指定管理者側の業務比重が増し、ここに多くの手間がかかる状況にある。運営事業者である「一般社団法人しまなみジャパン」と協議をし、「指定管理者」が対応すること「しまなみジャパン」が対応することの業務分担を明確にする必要がある。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 18)

公の施設の名称	尾道市御調グラウンド・ゴルフ場		
所在地	尾道市御調町綾目1929番地1		
指定管理者	団体名	株式会社みつぎ交流館	
	所在地	尾道市御調町大田33	
指定期間	平成 31 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日		
選定方法	<input type="radio"/> 公募	<input type="radio"/> 非公募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="radio"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 1 年目		
施設設置目的	グラウンド・ゴルフを通じて、住民の心と身体の総合的な維持及び増進に寄与するために設置する。		
主な実施事業	尾道市御調グラウンド・ゴルフ場の管理運営		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 入場者数	人	25,564	20,053	23,000	21,530	23,000	18,842	23,000	16,066	23,000	16,445	15,000	
② 年間券購入者数	人	280	286	280	150	280	137	280	204	280	201	200	
③ 用具貸出者数	人	1,150	1,156	1,200	1,319	1,250	1,097	1,100	1,103	1,100	1,193	1,100	
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,761
	利用料金収入 B	3,654	3,275	2,962	2,727	2,726	2,500
	自主事業収入 C	0	0	0	0	0	0
	その他 D	115	170	90	45	36	35
	収入計(A~Dの計) E	7,469	7,145	6,752	6,472	6,462	6,296
支出	指定事業費 F	7,875	6,931	6,660	6,678	6,582	6,650
	内、人件費 G	0	0	0	0	0	0
	内、修繕費 H	23	69	15	61	62	50
	内、再委託料 I	7,852	6,862	6,645	6,613	6,520	6,600
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	0	0	0	0	0	0
支出計(F+K) L	7,875	6,931	6,660	6,678	6,582	6,650	
使用料収入(市へ直接収納) M		0	0	0	0	0	0
減免金額 N		640	706	536	473	407	400
事業収支 E-L		-406	214	92	-206	-120	-354
利用料金収入比率 B/E		48.9%	45.8%	43.9%	42.1%	42.2%	39.7%
人件費比率 G/L		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		14.9%	17.7%	15.3%	14.8%	13.0%	13.8%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述) 新型コロナウイルスの影響による利用料金収入の減少を想定し、令和2年度予算は事業収支マイナスを予想。

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	B
	《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	12	回
		管理運営協議回数	6	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>R元年度も施設設置目的でもある、利用者の心と体の総合的な維持及び増進に寄与するために、休場日を利用した自主事業の月例大会を行い、通常営業日の利用者増を図りました。また、利用者からの要望などを、芝管理の担当者と密に協力し、施設の改善等も行い、すべての利用者に気持ちよく利用して頂く事に、努めてまいりました。</p> <p>R2年度も自主事業を継続して行き、来場者数目標達成できるよう努めるとともに、施設設置目的をはたせるよう努めてまいります。</p> <p>(所管評価)</p> <p>協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。</p> <p>R元年度の入場者数は、新型コロナウイルス等の影響もあり、西日本豪雨のあったH30年度とあまり変わらない数字となっている。休場日を利用した月例大会(自主事業)の開催など、利用者増加を目指した取り組みは評価でき、成果指標を達成するため今後さらなる取り組みが期待される。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S(優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S(優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 19)

公の施設の名称	尾道市長者原スポーツセンター		
所在地	尾道市高須町985-25		
指定管理者	団体名	公益社団法人尾道市シルバー人材センター	
	所在地	尾道市久保町1701-1	
指定期間	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 令和 2 年 3 月 31 日		
選定方法	<input type="radio"/> 公募	<input type="radio"/> 非公募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="radio"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 5 年目		
施設設置目的	スポーツの普及振興により市民の健康づくりの増進を図るため		
主な実施事業	屋内運動場(アリーナ)、トレーニングジム、会議室、研修室、テニスコートの貸出業務及び自主事業としてヨガ教室の開催		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 施設利用料収入	千円	11,200	12,328	11,200	12,694	11,200	12,321	11,200	12,631	11,200	12,358	11,000	
② 利用者数	人	72,000	88,466	72,000	91,528	72,000	88,973	72,000	91,501	72,000	88,141	92,000	
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	11,384	11,384	11,384	11,384	11,489	10,501
	利用料金収入 B	11,995	12,510	12,174	12,385	12,058	10,700
	自主事業収入 C	333	184	147	246	300	300
	その他 D	1,296	1,219	1,111	1,073	1,112	1,200
	収入計(A~Dの計) E	25,008	25,297	24,816	25,088	24,959	22,701
支出	指定事業費 F	23,087	23,123	23,818	24,261	25,150	22,161
	内、人件費 G	8,582	8,977	8,505	8,826	9,123	4,801
	内、修繕費 H	524	613	1,383	1,172	2,071	848
	内、再委託料 I	3,819	3,729	3,768	3,719	3,838	3,881
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	288	258	270	282	264	540
支出計(F+K) L	23,375	23,381	24,088	24,543	25,414	22,701	
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	705	891	1,051	994	1,296	1,000	
事業収支 E-L		1,633	1,916	728	545	-455	0
利用料金収入比率 B/E		48.0%	49.5%	49.1%	49.4%	48.3%	47.1%
人件費比率 G/L		36.7%	38.4%	35.3%	36.0%	35.9%	21.1%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		5.6%	6.6%	7.9%	7.4%	9.7%	8.5%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	B
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	12	回
		管理運営協議回数	6	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>3月分の実績はコロナウィルスの関係で少し減少しましたが、年間通しては、利用者数、施設利用料収入共に良好でしたので、自己評価もA(良好)と評価しました。</p> <p>(所管評価)</p> <p>協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。 指定管理期間を通じて、施設利用者数、利用料収入は安定推移しており、利用者ニーズを踏まえた堅実な施設運営によるものとして評価できる。 一方で、ヨガ教室以外の自主事業の開催、ホームページ等の電子媒体を用いた広報活動の充実が今後期待される。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

[様式-1]

(所管部署) 教育総務部生涯学習課

平成 元 年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 20)

公の施設の名称	尾道市マリン・ユース・センター		
所在地	尾道市向島町立花3035-3		
指定管理者	団体名	株式会社不二ビルサービス	
	所在地	広島市中区八丁堀15-10 セントラルビル内	
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 令和 3 年 3 月 31 日		
選定方法	<input type="radio"/> 公募	<input type="radio"/> 非公募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="radio"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 4 年目		
施設設置目的	青少年の健全育成及び海洋性レクリエーションの普及並びに海事思想の普及を図るため。		
主な実施事業	マリン・ユース・センター内施設(体育館・艇庫・オートキャンプ場)の管理 マリンスポーツの普及 自主事業として、マリンレジャー体験(SUP等)		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① アリーナ利用者	人	10,000	10,943	10,000	9,310	10,000	9,927	10,000	8,930	10,000	8,568	10,000	
② キャンプ利用者	人	10,543	9,697	10,543	8,042	10,000	8,660	10,000	7,351	10,500	8,191	10,500	
③ 艇庫利用者	人	1,319	391	1,319	585	850	360	850	246	900	285	900	
④ 全体利用者数	人	23,584	21,031	23,584	17,937	22,650	18,947	22,650	16,527	23,400	17,044	23,400	
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	10,285	9,900	9,900	9,900	9,966	10,031
	利用料金収入 B	3,593	3,323	3,630	3,026	3,778	3,638
	自主事業収入 C	3,124	2,972	3,284	2,308	2,547	4,400
	その他 D	142	141	142	142	142	141
	収入計(A~Dの計) E	17,144	16,336	16,956	15,376	16,433	18,210
支出	指定事業費 F	16,471	16,897	15,882	14,767	14,906	17,079
	内、人件費 G	12,038	11,742	11,794	11,119	10,365	11,412
	内、修繕費 H	247	275	21	233	25	220
	内、再委託料 I	882	650	823	474	589	784
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	1,040	1,734	2,629	901	649	800
支出計(F+K) L	17,511	18,631	18,511	15,668	15,555	17,879	
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	79	98	81	42	62	62	
事業収支 E-L		-367	-2,295	-1,555	-292	878	331
利用料金収入比率 B/E		21.0%	20.3%	21.4%	19.7%	23.0%	20.0%
人件費比率 G/L		68.7%	63.0%	63.7%	71.0%	66.6%	63.8%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		2.2%	2.9%	2.2%	1.4%	1.6%	1.7%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明

(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	B
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	12	回
		管理運営協議回数	6	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>自主事業における炭の取り扱いについて、安全性の向上を図る為、マニュアルを作成して対応しております。海上の安全性について体制強化に努めております。台風により桟橋、海岸の梯子の破損対応も適切に行っております。公園の遊具について、劣化箇所が目立っている為、一部使用禁止にしてより安全に利用いただけるようにしております。HP(ホームページ)も定期更新を行い、より一層PR活動に努めることで、青少年の健全育成及び海洋性レクリエーションの普及並びに海事思想の普及を図って参ります。</p> <p>(所管評価)</p> <p>協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。 平成30年8月の火災発生以降、対応マニュアルを作成し、安全性向上に努めている点は一定の評価ができる。一方で、自主事業については、キャンプ・バーベキュー用品の貸出や食材販売が中心となっており、本来の設置目的である「青少年の健全育成及び海洋性レクリエーションの普及並びに海事思想の普及を図る」事業の開催が求められる。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 21)

公の施設の名称	尾道市瀬戸田町B&G海洋センター		
所在地	尾道市瀬戸田町林19-5		
指定管理者	団体名	特定非営利活動法人 フレンド・シップせとだ	
	所在地	尾道市瀬戸田町瀬戸田535-1	
指定期間	平成 31 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日		
選定方法	公募	○	非公募
料金制導入区分	○	利用料金	使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 1 年目		
施設設置目的	「青少年の健康育成及びスポーツレクリエーション振興」を行うため。		
主な実施事業	施設運営管理。体育館、プール利用者の受付業務。B&G主催の各大会。健康体操教室、水泳教室、アクアビクス教室、吹矢教室、ウォーキング、水の安全教室、BGまつりなどの事業の開催。		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 体育館稼働率	%	50	43	50	40	50	38	50	37	50	33	50	
② 体育館利用者人数	人	15,000	17,010	17,100	16,423	17,000	13,066	15,000	12,323	15,000	12,737	15,000	
③ プール利用者人数	人	5,500	5,588	5,600	5,325	5,600	5,306	5,500	3,594	5,500	5,184	5,500	
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	8,248	8,248	8,248	8,248	8,035	8,110
	利用料金収入 B	763	995	895	785	839	980
	自主事業収入 C	1,253	1,248	1,285	1,147	1,184	1,150
	その他 D	256	127	150	138	96	150
	収入計(A~Dの計) E	10,520	10,618	10,578	10,318	10,154	10,390
支出	指定事業費 F	8,792	8,818	9,308	8,583	9,941	10,033
	内、人件費 G	3,581	3,674	3,549	3,665	3,884	4,000
	内、修繕費 H	252	201	68	87	90	10
	内、再委託料 I	1,566	1,681	1,619	1,248	1,746	1,600
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	1,327	1,458	1,421	1,229	1,423	1,660
支出計(F+K) L	10,119	10,276	10,729	9,812	11,364	11,693	
使用料収入(市へ直接収納) M		0	0	0	0	0	0
減免金額 N		236	204	214	209	200	200
事業収支 E-L		401	342	-151	506	-1,210	-1,303
利用料金収入比率 B/E		7.3%	9.4%	8.5%	7.6%	8.3%	9.4%
人件費比率 G/L		35.4%	35.8%	33.1%	37.4%	34.2%	34.2%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		23.6%	17.0%	19.3%	21.0%	19.2%	16.9%

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明 (必要に応じて記述)	自主事業収入にはフレンド・シップせとだの会員会費も含まれています。
---------------------	-----------------------------------

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	S	A
		備品を適切に管理している。	S	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	S	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	B	B
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
	緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A
		緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A
		緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	S	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	12	回
		管理運営協議回数	6	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>新たな5年間の指定管理1年目の年となった。過去5年間の実績を土台にして、安全で利用しやすい施設を目指し、本年度(R元年度)も事故なく運営できた。恒例のBGまつり、各事業の開催等積極的に運営し、多くの住民の皆さんに参加していただけた。老朽化する施設のメンテナンスも市と相談しながら行い、安全管理を適切にした。8月にB&Gの資格を有する人の退職で人員不足になったが、8月末に1名の雇用を確保して、次年度(R2年度)には研修にて資格をとる予定にしている。SNSの活用、ホームページの開設で広報活動も充実させた。また「BGたより」も定期的に島内の新聞折り込みにより配布し、体育館の使用予定やイベントなど掲載し、利用しやすいように情報発信した。3月になり新型コロナウイルス感染防止対策により、館内施設の利用休止も市の要請に従い行った。</p> <p>(所管評価)</p> <p>協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。 新型コロナウイルスの影響等もあり、利用状況に関する成果指標を達成することはできなかった。一方で、利用者アンケート調査によると、利用者の満足度は高く、利用者数増加の余地はある。毎月発行している会報誌等に加えて、より広く施設の周知を行うことを目的として、ホームページ開設、SNS活用による広報活動を充実させたことは評価できる。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S(優良)以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 22)

公の施設の名称	尾道市向島運動公園		
所在地	広島県尾道市向島町11098番地289		
指定管理者	団体名	一般社団法人 尾道市体育協会	
	所在地	広島県尾道市向島町11098番地289	
指定期間	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 令和 2 年 3 月 31 日		
選定方法	公 募	○	非 公 募
料金制導入区分	○	利用料金	使用料(市へ直接収納) 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 5 年目		
施設設置目的	スポーツの普及振興、市民の体力向上、会議研修の会場提供を目的とする。		
主な実施事業	キッズスポーツ体験教室、体育祭、記念グラウンド・ゴルフ大会等		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 利用料金収入	千円	6,500	7,429	6,825	7,632	7,166	7,629	7,525	7,302	7,901	7,186	8,062	
② 自主事業収入	千円	300	526	330	1,095	370	1,094	400	1,014	440	725	1,180	
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	21,000	21,000	21,000	21,000	21,192	21,117
	利用料金収入 B	7,429	7,632	7,629	7,302	7,186	8,062
	自主事業収入 C	526	1,095	1,094	1,014	725	1,180
	その他 D	905	1,024	976	1,169	1,641	1,057
	収入計(A~Dの計) E	29,860	30,751	30,699	30,485	30,744	31,416
支出	指定事業費 F	28,606	28,841	30,011	29,724	29,558	30,518
	内、人件費 G	8,863	9,056	9,749	9,497	9,472	10,327
	内、修繕費 H	564	670	697	708	744	850
	内、再委託料 I	11,049	11,088	11,002	11,068	11,141	10,726
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	328	814	810	769	523	870
支出計(F+K) L	28,934	29,655	30,821	30,493	30,081	31,388	
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	1,645	962	1,184	983	987	990	
事業収支 E-L	926	1,096	-122	-8	663	28	
利用料金収入比率 B/E	24.9%	24.8%	24.9%	24.0%	23.4%	25.7%	
人件費比率 G/L	30.6%	30.5%	31.6%	31.1%	31.5%	32.9%	
使用料収入比率 M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率 N/*2	18.1%	11.2%	13.4%	11.9%	12.1%	10.9%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明	
(必要に応じて記述)	

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	12	回
		管理運営協議回数	6	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>利用者が安全かつ快適に施設を利用できるように、利用者の意見等を参考にしながら、施設や備品の点検・整備・修理・更新を計画的に行ってきた。また、利用者が気持ちよく運動できるよう施設美化にも力を注ぎ、施設内の衛生環境や景観向上に努めている。 利用料収入は、2月末よりコロナウイルス感染拡大予防のため利用中止としたことから、予算額より減少した。</p> <p>(所管評価)</p> <p>協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。 新型コロナウイルス等の影響もあり、利用料金収入に関する成果指標は達成することができなかった一方で、利用者ニーズを踏まえた自主事業を展開し、自主事業収入に関する成果指標は達成することができた。スポーツを通して、地域コミュニティ活性化に寄与した点については評価できる。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

[様式-1]

(所管部署)

教育総務部生涯学習課

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 23)

公の施設の名称	尾道市立図書館及び尾道市芸予文化情報センター		
所在地	尾道市東久保町4番1号ほか		
指定管理者	団体名	NTTグループ・啓文社・新和ビルサービス共同企業体 代表企業 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	
	所在地	東京都江東区豊洲三丁目3番3号	
指定期間	平成 27 年 4 月 1 日 ~ 令和 2 年 3 月 31 日		
選定方法	<input type="radio"/> 公募	<input type="radio"/> 非公募	
料金制導入区分	<input type="radio"/> 利用料金	<input type="radio"/> 使用料(市へ直接収納)	<input type="radio"/> 無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 5 年目		
施設設置目的	図書、記録その他必要な資料を収集し、整理保存して一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資すること。		
主な実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館業務(カウンター業務、資料整理/管理業務、移動図書館車業務、相互貸借、行事/事業など) ・施設及び設備の維持管理業務 ・自主事業の運営(物販、自動販売機など) 		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 入館者数(全館)	人	540,000	556,103	550,000	571,907	550,000	558,336	520,388	522,546	530,429	536,404	580,000	
② 貸出点数(全館)	点	796,500	821,126	800,000	853,272	800,000	849,452	762,154	814,190	800,000	832,773	860,000	
③ 利用者満足度	%	86.0	92.5	86.0	93.8	86.0	92.4	86.0	93.1	86.0	94	90	
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区 分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	185,080	184,813	184,813	184,268	185,475	191,758
	利用料金収入 B	476	966	852	716	727	860
	自主事業収入 C	1,300	1,171	1,030	984	945	1,081
	その他 D	0	0	0	0	0	0
	収入計(A~Dの計) E	186,856	186,950	186,695	185,968	187,147	193,699
支出	指定事業費 F	186,384	186,462	186,358	185,870	187,126	193,669
	内、人件費 G	84,924	85,028	84,791	84,781	84,769	92,594
	内、修繕費 H	10,075	3,406	3,272	2,332	2,743	2,000
	内、再委託料 I	26,181	24,802	25,065	23,973	23,769	29,321
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	472	488	337	98	21	30
支出計(F+K) L	186,856	186,950	186,695	185,968	187,147	193,699	
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	0	0	0	0	0	0	
事業収支 E-L	0	0	0	0	0	0	
利用料金収入比率 B/E	0.3%	0.5%	0.5%	0.4%	0.4%	0.4%	
人件費比率 G/L	45.4%	45.5%	45.4%	45.6%	45.3%	47.8%	
使用料収入比率 M/*1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
減免金額比率 N/*2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

- ・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
- ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
- ・着色セルは、自動計算としている。
- ・*1は、(E+M)とする。
- ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明

(必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	S	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A	
	緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A	
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A	

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費縮減	経費が縮減されている、又は縮減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	12	回
		管理運営協議回数	5	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>運営管理の受託を受け、5年目が終了しました。協定書等に従い、施設、設備を適切に管理し、法令に基づいた管理運営に努めています。5館の図書館では地域性を考慮し、自主事業を意欲的に企画し、利用者の満足度も高まっています。</p> <p>また、令和2年度以降、5年間の指定管理の継続を認めていただきました。市民から信頼される図書館運営を推進するとともに、指定管理制度のメリットを生かした自主企画等を増やし、図書館サービスを充実させてまいります。</p> <p>(所管評価)</p> <p>指定管理期間の最終年であったが、貸出冊数及びアンケート調査による利用者の満足度は目標を達している。入館者数については、3月に新型コロナウイルス感染症予防のため、一部利用制限を行ったことで、当初の目標値には達することはできない状況ではあったが、年間の入館者の推移等を勘案すれば、この事態がなければ、達成できたものと考えられる。</p> <p>また、5年間の指定管理期間を通して、目標値を上回り、利用者の満足度も高い水準で維持していることは、評価に値するものである。</p> <p>今年度から新たな指定管理期間に入ったが、5年間の実績を踏まえて新たな試み等を実施していただき、今後、図書館がより魅力的なものとなっていくよう期待する。</p>		
前年総合評価	A		総合評価	A

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。
	A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。
	C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。
	A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S (優良) 以外】
	B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S (優良)、A (良好) 以外】
	C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。

[様式-1]

(所管部署) 尾道市立美術館

令和元年度 施設管理運営事業評価票

1 評価対象施設(施設No. 24)

公の施設の名称	平山郁夫美術館		
所在地	尾道市瀬戸田町沢200-2		
指定管理者	団体名	公益財団法人平山郁夫美術館	
	所在地	尾道市瀬戸田町沢200-2	
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 令和 3 年 3 月 31 日		
選定方法	○ 公募	○ 非公募	
料金制導入区分	○ 利用料金	○ 使用料(市へ直接収納)	無料施設
評価年度	指定期間 5 年のうち 4 年目		
施設設置目的	平山郁夫の作品及び作品に関する資料を収集し、保管し、併せて美術に関する普及活動及び情報活動を行い、もって教育・文化の振興を図る。		
主な実施事業	平山郁夫の絵画を中心に館内、館外で展覧会を開催し、併せて美術品や取材資料を公開している。平山郁夫の画業に関するセミナーや講演会を開催している。広く一般や子供を対象にした絵画教室や、絵画コンクールを実施している。美術館に親しんでいただくため、シルクロードに因んだ音楽を中心に館内にてコンサートを開催している。		

2 利用状況(目標と実績)

成果指標	単位	目標	H27年度	目標	H28年度	目標	H29年度	目標	H30年度	目標	R元年度	目標	R2年度
① 入館者数	人	70,000	60,201	65,000	58,197	65,000	52,777	65,000	44,745	55,000	56,671	50,000	
②													
③													
④													
⑤													

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:千円)

区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R元年度決算	R2年度予算
収入	指定管理料 A	0	0	0	0	0	0
	利用料金収入 B	50,485	49,512	43,758	30,426	38,663	41,553
	自主事業収入 C	47,098	37,817	41,055	45,996	86,095	64,500
	その他 D	1,229	2,323	2,288	1,339	1,305	995
	収入計(A~Dの計) E	98,812	89,652	87,101	77,761	126,063	107,048
支出	指定事業費 F	68,867	62,582	65,967	54,123	61,213	67,801
	内、人件費 G	24,224	22,617	22,445	21,679	23,404	24,153
	内、修繕費 H	536	155	47	164	81	168
	内、再委託料 I	0	0	0	0	0	0
	内、施設使用料 J	0	0	0	0	0	0
	自主事業費 K	35,528	33,795	34,589	32,944	52,106	43,730
	支出計(F+K) L	104,395	96,377	100,556	87,067	113,319	111,531
使用料収入(市へ直接収納) M	0	0	0	0	0	0	
減免金額 N	1,036	1,098	872	775	1,261	1,000	
事業収支 E-L	-5,583	-6,725	-13,455	-9,306	12,744	-4,483	
利用料金収入比率 B/E		51.1%	55.2%	50.2%	39.1%	30.7%	38.8%
人件費比率 G/L		23.2%	23.5%	22.3%	24.9%	20.7%	21.7%
使用料収入比率 M/*1		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
減免金額比率 N/*2		2.0%	2.2%	2.0%	2.5%	3.2%	2.4%

・「支出」欄「指定事業費」は、代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。
 ・事業費は、当該年度及び過年度決算を記入する。また、最右欄には、次年度予算を記入する。
 ・着色セルは、自動計算としている。
 ・*1は、(E+M)とする。
 ・*2は、(B+N)又は、(M+N)とする。

○補足説明
 (必要に応じて記述)

4 評価

注) 自己評価・・・指定管理者 所管評価・・・施設所管課

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
① 実施体制に関する評価	法令遵守	法令等に基づいた管理運営を行っている。	A	A
	施設管理	協定書等に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	A	A
		協定書等に従い、施設、設備等を適切に維持管理している。	A	A
		備品を適切に管理している。	A	A
		施設、設備、備品等を正常に使用できる状態に保っている。	A	A
	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	A	A
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	A	A
		事業計画に即し、計画的に研修等を行っている。	A	A
	再委託	再委託の内容は、事前に市の承認を受けている。	A	A
	管理運営記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	A	A
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	A	A
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	A	A
	利用料金	利用料金の額を適正に設定している。	A	A
		利用者からの料金徴収や現金管理等を適切に行っている。	A	A
	個人情報保護	協定書等に従い、個人情報の取扱いを適切に行っている。	A	A
		個人情報の漏洩、滅失等について、必要な対策を講じている。	A	A
	情報公開	協定書等に従い、情報公開の取扱いを適切に行っている。	A	A
	安全管理	利用者の安全対策等について、適切な対策を講じている。	A	A
		利用者の安全を確保するため、適切な監視を行っている。	A	A
	緊急時対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	A	A
		緊急時の対応について、必要な対策を講じ、定期的に訓練を行っている。	A	A
		緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行っている。	A	A
《 総括 》	「業務の実施体制」に関する評価 【標準23項目／本施設23項目】	A	A	
② サービスの内容や水準に関する評価	衛生管理	清掃、衛生管理を適切に行い、施設を清潔に保っている。	A	A
	利用者対応	利用に対する公平性の確保に努めている。	A	A
		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	A	A
	苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	A	A
	環境配慮	省エネルギー、省資源等の環境への配慮がなされている。	A	A
	事業運営	自主事業内容が利用者サービスの向上に繋がっている。	A	A
	広報活動	ホームページ等を活用し、施設の利用促進を図っている。	A	A
	利用者アンケート	利用者アンケート調査を実施し、その結果を順次管理運営に反映している。	A	A
	利用状況	利用者数、稼働率等は、前年度実績や目標と比較し妥当な水準である。	A	A
	《 総括 》	「業務の内容・水準」に関する評価 【標準9項目／本施設9項目】	A	A

評価項目		評価基準	自己評価	所管評価
③ 安定性の評価	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え適切に経理事務を行っている。	A	A
	収支状況	収入と支出のバランスを適切に保っている。	A	A
	経費削減	経費が削減されている、又は削減に向けた取組を行っている。	A	A
	財務状況	決算書等により、対前年比で大幅な変動が無く、業務の継続が可能な状態である。	A	A
	《 総括 》	「経費の収支等」に関する評価 【標準4項目／本施設4項目】	A	A
《 参考 》:施設所管課のみ		実地調査回数	5	回
		管理運営協議回数	6	回
所見 (成果、課題等)		<p>(自己評価)</p> <p>① 展覧会事業 開館以来平山郁夫の作品を中心に展示を行って来たが、入館者は50代60代次いで70代以上となっている。20代30代の平山郁夫を知らない世代の入館者は少なく、この様なことから平山郁夫だけにとどまらない多様な展覧会も求められている。また、今後増えることが予想される外国人観光客にも日本画の魅力を知って戴けるよう取り組む事としている。昨年の敦煌莫高窟第57窟のクローン文化財の展示で入館者が26.7%の増となったように、平山郁夫の文化財保護活動の紹介も積極的に行い、当館の独自性を高める取り組みがより必要となっている。広島大学総合科学部との連携で大型ディスプレイの導入等を行い入館者の満足度は上がったが、更に若い世代の入館を促すため、館内シアターでシルクロードの文化遺産や民族衣装の紹介を行い、多くの人を楽しんで戴けるよう努める。そして昨年の入館者56,000人から1割増しの62,000人、有料入館率90%を維持することを目標としている。</p> <p>② 教育普及事業・社会教育事業 引き続き尾道市・尾道市立大学、広島大学、ひろしま文化振興財団、中国新聞社と協力し日本文化の奥深さを感じてもらえるような講座、教室を展開することとしている。また、当館の教育普及事業の柱である平山郁夫美術館賞絵画コンクールは毎年3,000点を超える応募があるが、東日本の応募数が少なく、今後この地域の応募が増えるよう取り組みの強化を図りたい。広島大学との連携については、包括連携協定に基づき、シルクロードの紹介、留学生インターンシップの受け入れを継続する事とし、新たに総合科学部共創学科と観光と文化・平和とコミュニケーションをテーマに交流を進める事としている。これに尾道市内の観光文化施設とも連携を取り、今後確実に増える外国人観光客の対応にも取り組むことが重要ではないかと考えている。</p> <p>③ 収益事業 飲食販売については毎年3,000千円以上の赤字となっており対策が急がれる。今まで不定期ではあるが、ランチや地元の柑橘を使ったメニューを提供して来たが赤字解消にはつながっていない。今後定期的なランチの提供や、JR西日本の豪華列車瑞風などの団体の誘客に努める事とし、利用率を現在の18%から5%増の23%を目標に取り組む事としている。 物品販売は令和元年度は78,690千円・対前年95.1%の増と予想以上の売り上げとなり、当財団の財政を支える大きな柱となっている。大半が出版社と協定したリトグラフなど的高額商品であるが、今後も安定した売り上げが保てるよう営業に努める。また新たな商品の開発も積極的に取り組んでいく事としている。</p> <p>④ 美術館の維持補修 当美術館の設計は数寄屋風の住宅建築や、池上本門寺大客殿・大相撲の国技館など品格のある日本調の建築で有名な今里隆氏です。建物はナラ材を多用し暖かみのある空間づくりが行われています。庭園も著名な造園家の作品で建物との調和は美術館の大きな魅力となっています。開館23年となりますが、木造部分の傷みが目に付くようになり、計画的な修復が必要となっています。木造建築は修復しながら保存すれば、コンクリートの建物より長く持たせることが出来ると言われていています。庭園につきましても植栽してから23年が経っていますので、形を整える必要があります。これも何年かに工期を分けての補修が必要です。トイレも外国人観光客の増が見込まれることから洋式に改修が必要です。また映像機器、喫茶室の厨房機器の更新も出てきます。建物は定期的な補修が必要となります。単年度に多額の予算を組むことは困難と思います。長期の年次計画を立てて補修するしかありませんので協議をお願いします。先送りをするといずれ補修不可能となります。将来文化財にもなる可能性がある建築物を維持していく事は大変重要な事と考えます。</p> <p>(所管評価)</p> <p>入館者数や「利用料収入は昨年度と比較し増加に回復し、また、単年度収支の大幅な改善が見られ、大いに評価できる。一方で、入館者数の目標値が当初目標から低減しており、引き続き、入館者・入館料増加、好調な自主事業の維持などの取り組みに期待する。 社会教育事業に関して、様々な関係団体と連携を続け平山郁夫の顕彰に努めている。また、教育普及事業は、第13回平山郁夫美術館賞絵画コンクールでは3,234点の応募総数となり昨年度より大幅な増加を見せ、着実な営みが評価できる。 施設管理については、老朽化による修繕・修復箇所が増加しているが、これまでも大規模な修繕を含め、必要に応じて館内の修繕を実施してきた。今後も緊急性・必要性を考慮した修繕の順位付けを行い、協議の上計画的な修繕をしていく必要がある。</p>		
前年総合評価	A	総合評価	A	

※評価区分

評価基準:	S (優良) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準よりも優れている。 A (良好) = 協定書、仕様書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。 B (課題含) = 協定書、仕様書等を遵守しているが、内容の一部に課題がある。 C (要改善) = 協定書、仕様書等を遵守していないため、要求水準を満たしていない。
《総括》:	S (優良) = 評価基準がすべてA以上であり、かつSが過半数である。 A (良好) = 評価基準がすべてB以上であり、かつA以上が8割以上である。【上記 S(優良)以外】 B (課題含) = 評価基準がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】 C (要改善) = 評価基準にCが1つでも含まれる。
総合評価:	S (優良) = 《総括》がすべてA以上であり、かつSが過半数である。 A (良好) = 《総括》がすべてA以上である。【上記 S(優良)以外】 B (課題含) = 《総括》がすべてB以上である。【上記 S(優良)、A(良好)以外】 C (要改善) = 《総括》にCが1つでも含まれる。